



AK12025小原慧汰郎

近代の学校建築に関する研究

一埼玉の公立小学校を主対象として—

Keywords

学制発布 萩ヶ丘小学校 大宮小学校
法制史 大河小学校 学校建築

1. 研究背景・目的

学校建築は明治初期の学制発布によって誕生期を迎え、大きく学校建築の在り方が変化する。明治初期では学校建築がどうあるべきか、まだ理解されておらず、時代が進むにつれ様々な法令が公布される。。その中で、日本の首都である東京、擬洋風の栄えた山梨県に隣接している埼玉県を対象とし、法制史に沿って学校建築の変遷、法令との関係を把握する。

2. 研究方法

- (1)埼玉県内における学校建築の実測調査・図面作成
- (2)埼玉県公文書館にて文献・史料の収集・分析

3. 学校建築の歴史

3.1江戸時代

寺院建築、御殿建築、武家屋敷、庶民家屋の住宅建築などで、学校教育が行われてきた。しかし、学修を目的として新築された建築物は少ない状況であった。

3.2明治時代

近代教育制度の発足は明治5年(1872年)学制発布の施行に伴い、学校建築は誕生期を迎えた。その後、東京では開成高校(明治6年)、学習院(明治10年)などの洋風建築を大工が模範とし、擬洋風建築の学校を地方に建築してきた。この時代の学校の規模は小さく、左右対称形の中央に玄関がある一文字1棟のものが多くの特徴である。明治19年を過ぎてくると、新教育の普及とともに就学率も向上し、学校規模が大きくなっていく。従来の擬洋風建築、和風建築は地方においては継承されていたが、都心部では急速に影をひそめてゆき、両様式の折衷した形式のものが試作されるようになってゆく。この折衷の試作に続き、「教育令再改正」、「小学校設備準則」等の法令が確立され、学校建築の整理・類型化が完了する。

3.3大正時代から現代まで

台風、地震などの災害に対する防災の意識が高まり、構造的にも優れた学校建築が求められるようになる。明治時代では木造が主流であったが、大正期には煉瓦造りの建築が見られるようになる。しかし、災害被害の深刻さにより昭和期には減少してしまい、昭和期以降は安全性を考慮されRC造の学校建築が現れるようになり、現代の学校建築に繋がってゆく。

4. 法制史と平面計画の関係性

学校建築は公共建築であることから設計の際に法令の影響を受けやすい。明治初期は、文部省の定めた小学校建設図を参考として、寺院や民家を改造したものを始め、

教場を中心として外周廊下形式の純和風のものや中廊下式で両側に教場を設け、左右対称形をとる洋風を模したもののなど様々な様式が混在した。その後は、両様式を折衷したもののが試作され、学校規模も大きくなっていく。その後、明治28年に「学校建築図説明及設計大要」が発刊される。これにより、現代の形式に繋がる北廊下や教室規格など、この後の学校建築の指標となり形式の類型化が整う。さらに、特別教室の設置、運動施設の整備等が進められることになる。また、法令による奉安殿の設置が義務づけられる。学校建築は時代ごとの法令や教育制度に大きく影響を受け、制度の改変の度、校舎を新設することは経済的にも厳しい。そのため学校建築は校舎を増改築していくことで時代の形式に対応していく。

表 1

年代	学校建築に関する法令	教育に関する法令
明治5年		学制発布
明治6年	文部省制定小学校建設図	
明治12年		学制を廃止し「教育令」とする
明治15年	文部省示諭	
明治19年		小学校令
明治24年		小学校教則大綱
		御影並勅語謄本奉置方訓令
明治28年	学校建築図説明及設計大要	
明治34年	小学校建築設計要領	
明治37年	学校建築設計要領	
~		
昭和10年		「青年学校令」
昭和11年	特殊建築物規則	
昭和16年		「青年学校令」
昭和19年		「国民学校令」
昭和22年		教育基本法
		学校教育法
昭和25年	建築基準法 公布	

5. 実測調査

①調査対象：旧埼玉師範学校校舎(鳳翔閣)

実測調査日：2015年9月19日

所在地：さいたま市見沼区三室2458

②調査対象：旧埼玉県立松山高等学校学校校舎(同学校記念館)

実測調査日：2015年10月10日

所在地：東松山市松山町1-6

③調査対象：大河小学校 腰越分校

実測調査日：2015年10月10日

所在地：埼玉県比企郡小川町腰越1722

④調査対象：ときがわ町萩ヶ丘小学校

実測調査日：2015年12月17日

所在地：埼玉県比企郡ときがわ町大字西平1153

6.ときがわ町萩ヶ丘小学校

6.1ときがわ町萩ヶ丘小学校の沿革

萩ヶ丘小学校は平成16年に大柵第一小学校、大柵第二小学校、平小学校が統合され開校されたことから始まる。当時の平小学校の校舎を増改築し、現在の萩ヶ丘小学校に使用されている。平小学校は明治5年の学生発布により、明治7年4月に山口小十郎の住宅を以て旧校舎に充用し開校に至る。生徒の増加に伴い教室を増築し、明治20年に明覚学校西平分教室と改称される。明治23年10月に小学校令改正が行われ、萩ヶ岡小学校、明治41年に平尋常高等小学校と改称されていく。その後、明治45年に校舎がつくり変えられることとなる。大正8年8月には西側に校地を拡張し、昭和11年7月に西側に校舎(2階建6教室)、昭和33年6月に北校舎を取り壊し2階建て4教室を建てる。その後、プール、体育館をつくり、昭和50年に明治45年に建てられた分館を取り壊す。その後、上で述べた三校が統合し、平小学校であった校舎が現在も使用されていることに至る。

表 2

年代	萩ヶ丘小学校(旧平小学校の変遷)
明治7年	山口小十郎の住宅を用い、萩ヶ岡小学校を開校
明治20年	生徒の増加に伴い教室を増築、明覚学校西平分教室と改称
明治23年	平村萩ヶ岡小学校と改称
明治41年	平尋常高等小学校と改称
明治45年	校舎をつくりかえる
大正8年	西側に校舎を拡張
昭和11年	西側に2階建て6教室の校舎を建設
昭和22年	比企郡平村立平小学校設置
昭和30年	都幾川村立平小学校となる
昭和33年	北校舎を壊し、2階建ての校舎を建設
昭和38年	給食室・宿直室・使丁室をつくりなおす
昭和42年	プールができる
昭和50年	体育館の建設
平成16年	平小学校閉校、校舎を増改築、大柵第一小学校、第二小学校、平小学校が統合され萩ヶ丘小学校として開校

6.2ときがわ町萩ヶ丘小学校の概要

萩ヶ丘小学校は人里離れた、静かな自然に囲まれた埼玉の比企郡ときがわ町大字西平に位置している。建物は切妻瓦屋根であり、木造2階建ての和風建築物である。1階平面(図1)は昇降口に入って左側に図工室、家庭料理室、家庭準備室、図工準備室、学童保育室教室、右側に職員室という構成になっている。2階平面(図2)は階段左側にコンピューター室、理科室、理科準備室、音楽準備室、音楽室、右に多目的室という構成になっている。図面の右側3教室は平小学校時代(図5・6)から扱われていたものであり、時代は昭和10年まで遡る。外観は下見板張りの仕上げとなっており、一部モルタル仕上げとなっている。この建物は開口部に大きな特徴を持っており、アールデコのような円形の開口部(写真2・3)が見られる。アールデコの時代と比較すると萩ヶ丘小学校の方がデザインが先駆していることが分かる。他にも内部の階段に用いられているウサギの彫刻など、デザインが多く施されていることが分かる。天皇の写真と教育勅語を納める奉安殿(図3)は昭和4年に建てられ、校舎の外に配置されていたが現在は現存していない。

室、音楽室、右に多目的室という構成になっている。図面の右側3教室は平小学校時代(図5・6)から扱われていたものであり、時代は昭和10年まで遡る。外観は下見板張りの仕上げとなっており、一部モルタル仕上げとなっている。この建物は開口部に大きな特徴を持っており、アールデコのような円形の開口部(写真2・3)が見られる。アールデコの時代と比較すると萩ヶ丘小学校の方がデザインが先駆していることが分かる。他にも内部の階段に用いられているウサギの彫刻など、デザインが多く施されていることが分かる。天皇の写真と教育勅語を納める奉安殿(図3)は昭和4年に建てられ、校舎の外に配置されていたが現在は現存していない。



写真 1 外観

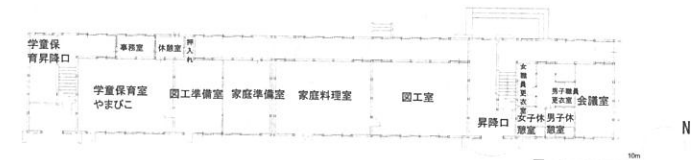


図 1 萩ヶ丘小学校1階平面

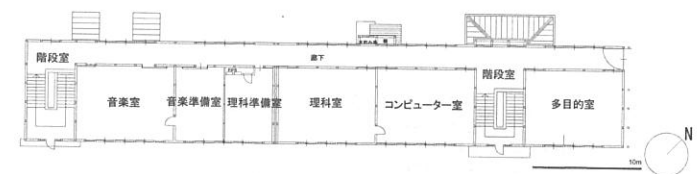


図 2 萩ヶ丘小学校2階平面

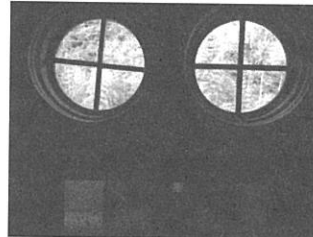


写真 2 丸窓 1

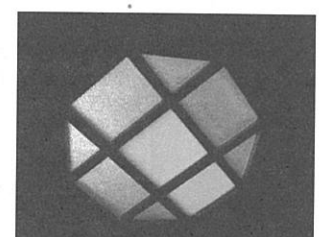


写真 3 丸窓 2



写真 4 うさぎの木彫り

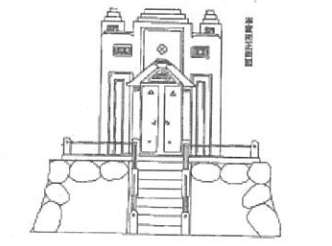


図 3 奉安殿立面図(現存せず)



図4 配置図

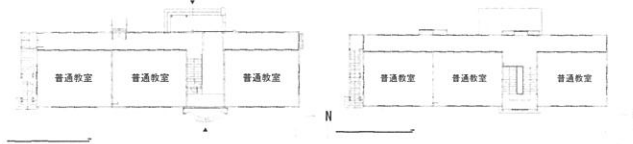


図5 平小学校1階平面図

7. 大河小学校 腰越分校

7.1大河小学校 腰越分校の沿革

大川小学校の始まりは明治6年8月1日、増尾村長昌寺に金橋小学校を創立したことに始まる。その後創立された天神小学校、青山小学校の2校が統合され古寺小学校が新築される。明治25年に金橋小学校を第一尋常小学校、古寺小学校を第二尋常小学校と改称され、明治35年にこの2校を廃し、大河尋常小学校と改称する。この日を大河小学校では開校記念日とし、腰越に第三教場として新築が行われ、これが対象としている建築物である。昭和29年には西側に校舎を1教室増築される。

表3

年代	大河小学校の変遷
明治6年	金橋小学校創立 天神小学校創立 青山小学校創立
明治8年	青山小学校、天神小学校を統合し古寺小学校創立
明治25年	金橋小学校を第一尋常小学校と改称 古寺小学校を第二尋常小学校と改称
明治35年	第一・第二尋常小学校を廃し、大河小学校と改称 現在の小川町に新築校舎を建設 腰越字館に第三教場を新築
明治42年	第三教場の名称を腰越分校と改称 大河尋常高等小学校と改称
昭和29年	腰越分校場に1教室を増築
平成19年	腰越分校廃校

7.2大河小学校 腰越分校の概要

建物は埼玉県比企郡小川町腰越の静かな自然あふれる場所に位置している。明治35年に腰越分校が開校されてから100年以上の歴史を持つ木造小学校である。大

河小学校腰越分校は木造1階建ての建造物であり、外観は外壁仕上げに下見板張りが使用され、屋根は切妻和瓦屋根となっている。開口部は水平の連続窓になっている。中央部分に玄関が設けられており、左右に和教室が1つずつ配された一字形をとっている。教室と教室の間はたたきの通路であり、職員用の部屋は東側に配されている。西側教室は明治43年の建物を取り壊し、昭和29年に建替えたものである。車寄せはその時新規に付け加えたものであり、当初は東側の土間が入口であった。玉石の基礎とコンクリート基礎の違い、小屋組の金物の仕様から西側教室が新しいことがわかる。現在は、文化財の保管等に扱われている。



写真5 外観

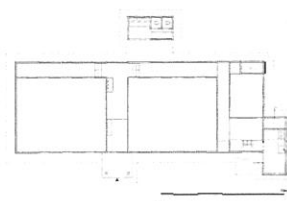


図7 1階平面図

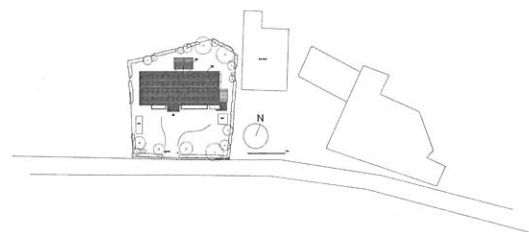


図8 配置図

8. 埼玉県歴史的な小学校建築

8.1大宮小学校の沿革

大宮小学校のはじまりは明治6年に東光寺を教室として創立したことに始まる。明治8年には東光寺の火災により宗金寺に分置されることとなる。その後、明治26年に宗金寺を敷地として、大宮小学校第一校舎が新築される。これは凹字形の校舎である。明治31年には生徒数が増えたことにより二階建ての第二校舎が増築される。明治40年、明治44年には2つの校舎が増築され、同じ敷地に校舎が6つ出来上がる。大正4年には敷地内に奉安殿も建設される。

表4

年代	大宮小学校の変遷
明治6年	東光寺を教室として開校
明治8年	東光寺の火災により、北沢氏宅に移る。一部を宗金寺に分置する
明治26年	宗金寺を敷地として、大宮小学校第一校舎が新築
明治31年	二階建ての第二校舎増築
明治40年	第三校舎、第四校舎増築
明治44年	第五校舎、第六校舎増築
大正4年	敷地内に奉安殿を建てる
大正11年	校舎二棟増築
昭和22年	大宮市立大宮小学校と改称

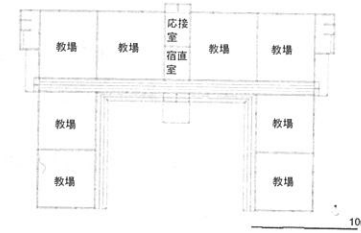


図7 大宮小学校 1階平面図

9. 法制史との関連・比較

明治初期では「学制発布」、「教育令」、「小学校令」といった教育に関する法令が多く公布され、それに伴い学校建築が多く誕生している。学制発布直後の学校施設は従来の寺子屋や、私塾をそのまま使用し、新たに新築することはあまりなかった。萩ヶ丘小学校、大河小学校、大宮小学校も同様に住宅、寺を仮校舎として開校していることがわかる。当時学校建築がどうあるべきかを十分に理解していなかったため、明治6年の「文部省制定小学校建設図」により、学校建築指導の絵図面が通達される。これによると6つの型があり、大宮小学校はその凹字型に当てはまる。この図の影響を受けていたことがわかる。教育令後、明治14年に教育諸般の事項に関する「文部省示諭」が配布される。この中には小学校建築に関する文部省の基準が示されている。それによると、校舎はなるべく平屋建てであるべき、教場の窓面積はその床面積の6分の1以上、机・椅子の高さに人体寸法の比例値を用いる、階段は二ヶ所設け半折階段とする、便所は校舎から離す等が挙げられる。大宮小学校の校舎は平屋であり、便所が離れた位置にあるので文部省示諭の影響を受けていることがわかる。次に「小学校令」の公布により、学級の人数が多くなるため、大きな教室が要求されるようになる。このため明治24年に「小学校設備

表5 法制史と各校の変遷

年号	法令	ときがわ町萩ヶ丘小学校(旧平小学校)	大河小学校 腰越分校	大宮小学校(大宮市)
明治5年	M5 学制発布			
明治6年	M6 文部省制定小学校建設図	M7 山口十郎の住宅を仮校舎として開校	明治6年 増尾村長昌寺に金橋小学校開校	明治6年 東光寺を教室として開校
明治10年	M12 学制を廃止し、「教育令」とする M14 文部省示諭 M16 小学校令	M12 校地を宮平に選定 M14 校舎を建設		明治8年 東光寺の火災により宗金寺に分置
明治20年	M24 小学校設備標準備則	M20 明覚学校西半分教室と改称 M23 萩ヶ丘小学校と改称		M26 大宮小学校第一校舎新築(凹字型)
明治30年	M33 小学校令施行規則 M34 小学校建築設計要領 M37 学校建築設計要領		明治35年 大河尋常小学校と改称される 腰越に第三教場として新築	M31 2階建ての第二校舎が増築 M40 2つの校舎第3、第4を増築
明治40年	M41 平尋常高等小学校と改称			
大正10年	S10 青年学校令 S11 特殊建築物規則 S16 国民学校令 国民学校建築物 S22 日本建築規格小学校建築物教育基本法 S24 日本建築規格 木造小学校 S25 建築基準法	T8 西側に校地を拡大 S11 西側に2階建て6階教室を建設		
昭和30年		S33 北校舎を破壊 2階建て4教室の校舎を建設 S38給食室・宿直室・便丁室のつくりなおし S42 プールを建設 S50 体育館を建設 分館の取り壊し H16 校舎を改築 2教室分取り壊し	昭和29年 西側に1教室を増築される	
昭和40年				
昭和50年				
平成10年				

準則」が公布される。これは、校舎はなるべく平屋であるべきとし、また、裁縫室、工作室等の特別教室を設置することを奨励している。これ以降、萩ヶ丘小学校など特別教室を設置している学校が姿を現していく。学校建築は建設、敷地も拡張するのに費用が掛かる。学校建築は増改築を行い、萩ヶ丘小学校、大河小学校も増改築を繰り返す。

10. 総括

明治時代の法令は学校建築がどうあるべきかを示す基本方針であり、多大な影響を与えた。その法令は現在の学校建築の基本方針にもなっている。明治時代の学校建築の平面の変遷過程は、各年代ごとに、学生発布から始まる学校創設期、萩ヶ丘小学校、大宮小学校にもみられた拡張期、そして分校などの衰退廃校期、さらに、保存再生・用途変換期の4期に分けられ、100年の歴史を持つ大河小学校腰越分校も保管庫として利用されている。その中でも、萩ヶ丘小学校は戦前の意匠性の高い学校建築で、統合により小学校として用いられ続けている貴重な事例である。

参考文献

- (1) 菅野誠、佐藤謙 共作 日本の学校建築 発症から現代まで 資料編 昭和58年
- (2) 上村朋祐「近代の学校建築に関する研究—山梨県における擬洋風学校建築から戦後まで—」 卒業論文
- (3) 開校記念誌 都幾川村立平小学校
- (4) 大宮小学校のあゆみ
- (5) 大河小学校のあゆみ
- (6) 七十年史 埼玉県立松山高等学校
- (7) 角田勇一 埼玉における戦前の木造小学校建築に関する研究 —飯能市に現存する小学校校舎を中心として— 修士論文